

自動化進む大型加工機

門型機をはじめとする大型加工機を主力とする新日本工機（SNK、堺市南区）。自動車用金型や航空機部品など幅広い業界に向け、国内外に加工機を納入している。モノづくりのための人材育成にも注力する中西章社長に、今後の展望などを聞いた。

「大型加工機の近況が活況になっている」
はいかがですか。――多様化する製造現場

「販売は堅調だ。取場のニーズにどう対応
引先は重工・一般が4割、自――お客さまとも

割、航空機が3割、自動車3割。海外との取引もあり、現在は仕サイクルである30年の事の約6割が海外企業間、モノづくりの改善とのものになっている。『空飛ぶタクシーの強み。近年は取引先』など一品物の加工に社員を出張・常駐さ向けの機械も受注して、現場のニーズにしている。2019年からえられるようにしている。航空機系が陰っている。大型加工機でも自半面、宇宙産業の分野動化が加速度的に進む

新日本工機社長 中西 章氏

資格制度導入、人育てる

中で、大手メーカーがような企業もある。ウから『SNKさんな考えないような自動化エブミーティングが浸らやってくれる』と評を求める『新世代メーカー』とお付き合いした変化に柔軟かつ素も増えている

「新卒採用を積極的に行う。近隣の工業高校などを通じて、学生に当社やモノづくりを知ってもらい取り組みを続けていきたい。学

生のうちに加工機などに触れてモノづくりの楽しさを知ってもらうことで、興味や関心を引く。海外の拠点に関しても、現地で社員を採用する」

＊取材はオンラインで実施。写真は新日本工機提供

「新世代メーカーにた。加えて当社は制御ソフトウエアやプログラからスタートして、要ラムの構築も手がけて望が昼と夜で変化するおり、新世代メーカー

変化の時こそ人材を大切に

記者の目

製造業は激しい変化の中にある。自動化は人を単純作業から解放し、より高付加価値の作業へのシフトを可能にするが、どれだけ作業を効率化しても人手による仕事がなくなることはない。それを理解し人材育成に注力するSNKに、最先端の新世代メーカーも引き付けられているようだ。（伊藤快）



「資格制度を導入し、人材育成を進めつつ、社内の賃金制度の見直しを行う。長く安心して働ける会社を目指す。労働環境を改善するための設備投資も実施する。具体的な内容についてはこれから詰めるが、今後も一定の規模の投資を実施していく」

――モノづくりの人材確保の対策は。